

「まこやん一步成長す」の巻

By まこやん こと 谷口誠

まだピュアーなハートの持ち主だった頃。勤務していた監督署の管内は、日雇いの労働者が多い地域で、そんな人たちによる賃金不払いの相談が多かった。

ある朝、50歳くらいの男性が相談に来て、



〇〇建設で10日間働いていたんやけど、給料が貰えへん



待ってくれと繰り返すばかりで、何度督促しても払ってくれへん。昨日から何も食べていない。交通費もないので歩いてきた。

と言う。

普通は、相手に呼び出し状を出したりして、申告後、概ね1週間くらいの間に相手と接触をとることが多いのだが、切迫した様子だったので、その場で会社へ電話した。

応答に出た事業主、最初は



働きぶりが悪かった。 だの



経営が思わしくない。 だの



月末まで払えん

だのと言って支払いを渋っていたが



この人は、今日泊まる場所もないし、昨日から何も食べてないんでっせ。

本当に餓死したり、凍死したらどう責任をとるんですか

社会問題になりませ〜

という半ば脅しが効いたのか、運良く事業主が折れて、



わかった。払うがな。俺は10時まで会社にいるので、その男をこちらに來させてくれ

との返事を得た。

早速、男性に、その旨を伝え、直ぐに会社へ行くように指示したが……



さっきも言ったけど、電車賃もありませんのや。歩いて行ったら10時には間に合えへん



う〜〜ん、困りましたね〜



絶対返すし、お礼もします。電車賃を貸してください



ほな、200円貸しますわ。誰にも言うたらあきませんよ



おおきに、おおきに感謝します！

こうして男性は会社へ向かった。それから約30分後、問題の会社から電話があり、社長が



今、給料を払いました。本人に代わります

と言い、男性は



ありがとう。本当に助かりました

と嬉しそうに話した。



よかったですね、電車賃のことは気にしなくてもいいですよ。

ということで一件落着し、「今日はいいことしたなあ」と、いい気になっていたのだが……

なにしょんねん！

数日後・・・

いつものとおり、3階の事務室で仕事していたら、下の方がなんだか騒々しい。

どうも、監督署の入り口付近に大勢の人間が集まって騒いでいる様子。程なく2階から署の庶務担当が血相変えて3階に上がってきて



誰か、建設作業員にお金をあげなかったか？

と怒鳴った。

恐る恐る先日の事件のことを話すと・・・



ちょっと来い！

と下へ連れて行かれた。

1階に行ってみて絶句・・・玄関には、20人以上の建設作業員風の男がいて、「おい、まだか」などと言っている。

おまけに一列に並んで、後ろのほうでは「俺のほうが先や！」とか言い争っている。



何事ですか？



ここに来たら、450円もらえるって聞いたで



俺にもくれ！ はよくれや



くれ くれ くれ くれ



きやああ～～～

やっと状況を理解した。先日の男が



監督署に行って、金もろたで～

と仲間に吹聴したようで、それが伝言ゲームのように誇張されて

「監督署に行けば450円貰える。」

というふうに話が広がってしまったらしい。

私と上司は、全員に



そんな事実は一切ありません。全くのデマです。



お引取り下さい

と説明し、押し問答の末、なんとか全員に引き取ってもらう。

その後私が、上司、次長、署長から順々に



あほ～～～



ぼけ～～～



どアホ！

と、めちゃくちゃ叱られたのは言うまでもない。

そして例の男からはその後一切の連絡もなし



あのおっさん、なにしょんねん。！

それにしても、450円ってなんやねん

中途半端に値があがるとるやんけ・・・

こうしてまこさんは、ピュアーなハートをひとつ失い、かつ、また一步成長したのである。

おわり